

# 人と地域をつなぐ公共ライドシェア連携事業支援業務 仕様書

## 1. 業務内容【交通モードの構造再編（笠置町・南山城村・和束町）】

### 1) 計画準備

業務の目的・趣旨を把握したうえで、業務計画書を作成する。また、既存資料等をもとに対象地域の状況を把握する。

### 2) 実証運行計画の策定支援

#### ① 既存公共交通の利用状況の分析

協議会または交通事業者から既存公共交通の利用状況がわかる電子データの提供を受け、利用状況の集計・分析を行う。

#### ② 関係者との調整

実証運行の実施に向けた詳細な調整を行う。対象は株式会社キタモリ、やまなみ交通運営協議会、笠置町、和束町、南山城村を想定する。

#### ③ 運行計画の策定

上記①、②の結果を踏まえ、実証運行計画を策定する。また、運行事業者との協議・調整を行う。

#### ④ 事業計画変更認可申請等の運行手続きの支援

広域バスの道路運送法第 78 条への変更、及び村タクの事業者協力型自家用有償旅客運送への変更に係る申請資料の作成を支援する。作成にあたっては事前に京都運輸支局との調整を行う。

### 3) 地域住民への周知・広報支援

#### ① ニーズを把握できるような活動の実施

実証運行を計画している対象地域に対して移動ニーズを定性的に把握する取組や周知活動を実施し、実証運行内容に可能な部分は反映する。

#### ② 住民向けのチラシ作成

実証運行及び本格運行の案内チラシのデザイン・作成を行う。笠置町およそ 600 世帯、南山城村およそ 1,200 世帯、和束町およそ 1,600 世帯への配布、規格は A3 両面を想定する。なお、配布は広報への同梱による方法等を想定し、発注者で対応する。

### 4) 運行車両の手配

実証運行に使用する国産メーカー車両を、実証運行開始日前までに 1 台手配する。乗車定

員は 10 人（運転手含む）程度を想定する。

実証運行の車両に貼る車体表示（マグネットシート）を作成する。1 台につき側面 2 枚および前面 1 枚を想定し、1 台分を準備する。

#### 5) 実証運行結果の検証

##### ① 利用者アンケート調査

アンケート調査票の設計、調査結果の集計・分析を行う。

- ・調査手法：調査票を車内配布し、車内回収または郵送回収を想定
- ・調査票数：200 部（100 部/台×2 台想定）を準備し、回収率 50%を想定

##### ② 運行事業者ヒアリング

運行事業者へのヒアリングを実施し、運行にあたっての課題や令和 9 年 4 月の見直しで対応が必要な事項等を把握する。

##### ③ 評価検証・本格運行に向けた見直し案の検討

実証運行開始後の利用状況や利用者アンケート調査、運行事業者ヒアリングの結果をもとに評価検証を行い、令和 9 年 4 月からの本格運行を見据えた見直し案を検討する。

#### 6) 地域内フィーダー系統確保維持計画の作成支援

令和 9 年 6 月末までに行う計画認定申請の際に提出が必要となる、地域内フィーダー系統確保維持計画（地域公共交通計画別紙）の作成支援を行う。作成にあたっては事前に京都運輸支局との調整をオンラインで行う。

#### 7) 報告書作成

業務を完了次第、結果をとりまとめ、業務報告書を作成する。

#### 8) 打合せ協議

3 回（初回、中間、成果品納品時）実施することとし、必要に応じて電話や WEB 会議等で追加の協議を行う。

## 2. 成果品

業務の成果品は以下の通りとする。

- ・業務実施報告書 1 部
- ・電子媒体（CD-R） 1 部